

北海道礼文町における 「保小中高連携教育」の効果と展望 ～校長・教頭・教職員による自己評価をもとに～

古川 碧

●要約

本稿は、北海道礼文町⁽¹⁾における「保小中高」間の連携教育について、実践の主体者である校長・教頭・教職員の自己評価をもとに、その効果と課題・展望を考察することを目的とする。礼文町の連携教育は、その目標、内容、組織等においてきわめて独創性に富む。すなわち、礼文町の地域性を生かし、すべての児童生徒の発達保障を基本に、高校を含め全町一丸となって取り組まれている。また、連携教育の推進母体が礼文町教育研究会であることもユニークである。自ら考え、研究・交流し、実践しているだけに、この連携教育に対する評価は高く、小中学校の校長、教頭、教職員の88%が「成果を上げている」と評価している。今後は、評価の視点をあくまでも児童生徒の変容（成長発達）に据えつつ、自校の教育課程と教育活動・学校運営の改善・充実および各自の職能向上にしっかり結びつけること、さらに、リーダーの育成や高校問題の解決などが求められる。

●キーワード

礼文型連携教育

礼文検定

礼文学